

学部 / 看護専門領域 / 健康・疾病・障害の理解

科目コード:130006

解剖生理学 Human Anatomy and Physiology

担当教員	市丸 徹										
実務経験											
開講年次	1年次前期		単位数		1		授業形態			講義	
必修・選択	必修		時間数		15						
該当ディプロマポリシー	(1)		(2)	○	(3)	◎	(4)		(5)		(6)
Keywords	解剖学、生理学、階層構造、器官系、恒常性の維持、上皮組織、体腔、骨格、中枢神経、体循環、肺気量、消化管、肝胆膵、尿生成、内分泌腺										
学習目的・目標	解剖生理学では、人体の基本的な成り立ちを学びます。ここでの理解は、疾病・病態等を学ぶ上での重要な基礎となります。医療に携わる者の常識として、しっかり身に付けてください。 【目的】 人体を構成する各器官の基本的な構造(形態)と主なはたらき(機能)を理解する。 【目標】 1. 人体各部位・器官の名称と、構造の特徴を説明できる。 2. 各器官のはたらきを専門用語を用いて具体的に説明できる。										
授業計画・内容											
回	内容										
1	人体の基本構造		人体の階層構造、各器官系の構成臓器と主な役割								
2	運動器系		身体部位の名称、骨と筋肉の名称								
3	神経系・内分泌系総論		神経系の区分と主なはたらき、ホルモンの定義、主な内分泌器官								
4	循環器系		心臓の構造、体循環と肺循環、血管の分類、主な血管の名称、リンパ循環								
5	呼吸器系		呼吸器系の構成と構造、換気のしくみ								
6	消化器系		消化管の構造、肝胆膵の構造と主なはたらき								
7	泌尿器系		腎臓の構造、尿の生成、排尿調節								
8	内分泌系各論		視床下部・下垂体、副腎、甲状腺のはたらき								
教科書	なるほどなっとく！解剖生理学(改訂2版)、多久和典子、多久和陽著(南山堂、2019) 教科書とあわせて、各回で講義資料(PDF)を配布します。										
参考図書等	系統看護学講座 解剖生理学 人体の構造と機能①、坂井建雄、岡田隆夫著(医学書院、2022) ※ 学生からは印刷版の需要が高いため参考書指定としていますが、教科書相当として必ず購入してください。 解剖生理学ワークブック、坂井建雄、岡田隆夫編(医学書院、2019)										
評価指標	成績評価対象者:出席2/3以上、課題提出者。 課題は毎回の講義で指定します。講義終了後に試験を実施します。 試験80%、課題20%で評価します。										
関連科目	解剖生理学演習、代謝と栄養、解剖生理学実習、疾病障害論、人間病態学、他多数										
教員から学生へのメッセージ	講義の形態として反転授業を取り入れます。十分に予習時間を確保し、教科書の該当範囲は自分で読み、動画を指定された場合は必ず視聴して、自分なりに疑問点を明らかにしてから講義に臨んでください。講義では、学生が各回の修得事項を学習済みであることを前提に、その確認をする形で進めていきます。 自習ノートを用意してください。ノートには必ず、学習した日時も記入すること。理解した内容を自分の言葉や絵図で説明する訓練をしましょう。 人の身体は驚くほど合理的にできています。その面白さに気づき、講義内容の範囲に留まらずに自ら学びを進めてもらえたら嬉しく思います。質問はいつでも歓迎します。										